伊東市史だより

第２号
平成13年３月31日

歌川豊國画「新版 伊豆國柏ヶ峠にて人々相撲の図」(江戸時代)　城ヶ崎文化資料館蔵

曽我物語の名場面
―解説にかえて―

伊東祐親の嫡男である河津三郎祐泰（土俵上左側）と、俣野五郎（土俵上右）との相撲は、昔から、最も有名な相撲の名場面として、たくさんの絵に描かれて来ました。江戸では、武士町人を問わず、この相撲を知らない人はいなかったでしょう。『曽我物語』によれば、源頼朝を慰めるためと称して開かれた奥野の大巻狩りの後の宴で、余興として催されたのが、若武者たちによる相撲大会でした。

都でも第一の相撲の強さをうたわれた俣野五郎が、向かう所敵無しで奢り高ぶり、あまつさえ、老骨の土肥実平（河津三郎の烏帽子親）を侮辱するような言動に、我慢ならなくなった河津三郎が、待ったをかけたのです。この相撲で堂々の勝利を納めた河津三郎は、永く相撲中興の祖とあがめられ、四十八手の中に「河津掛け」の名を残しました。その場所についての伝承は、柏峠のある柏嶺、奥野、河津三郎血塚のそばの取手畑など諸説があります。

伊東市史の編さんに思う

坂誥　秀一
伊東市史編集副委員長
（立正大学学長）

新しい歴史学の視角と方法を標榜して、それを日常的に実践されている網野善彦編集委員長の指導により進行している市史の編集事業は、沢山の市民をはじめとする皆さんのご協力のもとに着々と進んでいます。

一味違う伊東市史、と各方面から期待されているだけに編さん委員会の会合は、何時も熱気を帯びた意見の交換の場となります。

海と火山そして温泉という豊な自然環境は、その地に営まれた多くの先人の文化を育んできました。伊東市の歴史は、このような自然環境のあり方を前提にすえて考えていくことが必要です。石器時代から綿綿と生起してきた先人の営みの痕跡は、文献古記録・物質的資料・伝承に、さらに地中に求められます。それらをトータルに捉えるために多彩なメンバーによって、各分野ごとの調査が鋭意努められています。コンダクター役の網野先生の市史編さんの眼目は「新しい伊東市史の編さん」（『伊東市史だより』第一号）に委曲がつくされていますし、近著の『「日本」とは何か』（日本の歴史00巻、講談社）に歴史の見方「網野史学」が示されています。「自然と人間の関係に目を注ぎつつ社会の歩みを多面的にとらえ」る視点こそ、このたびの伊東市史となることは明らかです。

私の分担は、物質的資料を史料化して原始古代以降の伊東の地の歴史を考古学の視点と方法によって調査し研究することです。時代がさかのぼれば、さかのぼるほど人びとの生活は自然環境と密接さが深まっていたようです。そこにはカミに祈る思いが濃厚に資料にあらわれているかのようです。物質的な資料（モノ）からそれを残した人びとの心をのぞいてみることは困難です。しかし、その困難をあえて科学の眼で考えてみることによって先人の営みが理解できるものかと思います。

伊東の地に生活を営んだ先人たちのナマの姿をモノによって考えてみたい、と念願しています。

昨年、副編集委員長の宮田登先生が急逝されました。まさに晴天の霹靂でした。「海・山・温泉と魅力いっぱいの伊東で市史編さん」に意欲を燃やされていた先生のご冥福を祈念しながら筆をおきたいと思います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

編集委員紹介

加藤　清志
編集委員
（伊東市文化財審議委員長）

【主な著書】『伊東風土記』サガミヤ
『伊東の地名』サガミヤ

郷土伊東の歴史を、熱く語り続けた諸先輩、故山田義郎、故島田千秋、故飯島実さん等の思いを受け継いで、市民の知りたいと思う歴史を、少しでも多く明らかにできれば、と願っています。学者・研究者の諸先生と、市民の皆さんとの架け橋になれれば、と思っています。皆さんの声をたくさん寄せてください。

神野　善治
編集委員
（武蔵野美術大学教授）

【主な著書】『人形道祖神』白水社
『木霊論』白水社

急逝された宮田登先生のあと編集委員をお引き受けすることになりました。先生の広い学識に及ぶべくもありませんが、精一杯頑張ります。民俗部門では「伝承」を通して過去の暮らしぶりをたどります。それは市民の皆さんの記憶の中に生きる世界を訪ねることです。この機会に、未来に遺しておきたい「心の風景」を大いに語っていただけますようお願いします。

小山　真人
編集委員
（静岡大学助教授）

【主な著書】『ヨーロッパ火山紀行』ちくま新書
『フィールドガイド日本の火山』（共著）築地書館

伊東は、火山を初めとする自然の恵みに満ちた土地です。それらの自然の成り立ちや恵みをよりよく理解することが、災害につよいまちづくりに役立ちます。自然の造形をいま以上に観光資源として生かしていくこともできます。学生の頃からお世話になった伊東に、このような形で恩返しができることを嬉しく思います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

市史編さん事業の一年を振り返る

近世部会の活動

近世部会長　田上　繁

近世部会では、伊東市の歴史に関する古文書の悉皆調査を行っています。おもに江戸時代に書かれたものが調査の対象となりますが、これまでも、吉田の下田サダ家、十足の小川順作家、竹の内の佐藤昇家・稲葉八重子家、新井の佐藤昭吾家、岡の佐藤太兵衛家などを訪問して、古文書の調査をさせていただきました。また、富戸の蓮着寺、新井の弘誓寺の二寺院の調査も実施しました。これらの調査で、貴重な新出の古文書も多数発見されています。

両佐藤家と稲葉家では、お蔵の中まで見せていただきました。お蔵の中を調査しますと、家人も知らないような古文書がよく発見されることがあります。お蔵の調査を依頼しますと、一様に「掃除をしてから」とのご返事をいただきますが、調査団としましてはどんなに散らかっていようとも、そのままの状態の方が好都合ですので、できれば掃除をしないで見せていただければと思います。

調査は市域だけではなく、市外の古文書所蔵者のお宅へも伺うことになります。東京都町田市在住の川村直樹家はそのような一例で、同家では旧和田村に関する古文書を所蔵されていました。調査後、川村家のご厚意により、それらの古文書は伊東市に寄贈されましたが、この川村家への訪問が縁で、数ヵ月後に貴重な古文書と出会うことになろうとは夢にも思いませんでした。昨年末の伊東市内での調査の折、菩提寺の浄円寺にある川村家のお墓を参拝したところ、「紀州加太出」と刻まれた他家の墓石が目にとまりました。それは、浜野定雄家（屋号幸手屋）のお墓で、同家と紀州とのつながりに興味をひかれた調査団一行は、事前の連絡もとらずに、その足で同家を訪ねてみました。

竹の内　佐藤昇さん宅での古文書調査のようす

突然の訪問にもかかわらず、浜野家では快く迎え入れてくれると、古文書の閲覧までも許してくれました。その古文書は、「古今雑記—二—浜野家図」と標題があり、幕末にかの有名な『伊東誌』を著した浜野建雄が記述したものでした。それには、浜野家の系譜をはじめ、元禄の大地震や近隣の火災の記録、廻船で名古屋や江戸へ航海していた記述など、大変興味深い内容が書かれていました。ほかにも『伊東誌』の原稿の一部が残っており、このような史料的価値の高い古文書にめぐり会えたことからも、悉皆調査がいかに重要であるか改めて知らされました。なお、「古今雑記—二—浜野家図」は、一時借用してフィルムに収めたあと、全文を解読して返却することになりました。

内容のある市史を作るためにも、また、貴重な文化財として後世に伝えるためにも、古文書の調査は不可欠であり、近世部会では今後とも精力的に調査を進めていきたいと考えています。

民俗部会の活動

民俗部会　吉川　祐子
横山　聡

―池・新井地区のみなさま　ありがとうございました―

民俗部会の今年度の調査は、夏の池地区調査と正月の新井地区の調査が中心でした。

池地区にはまだまだ暑い盛りの八月下旬におじゃましました。盆の行事が終わったばかりで、地区内には盆行事のあとがまだ残っていました。池の方は働き者で、炎天下の畑にお邪魔したり、生涯学習センター池会館にお集まりいただいて、思い出話を聞かせていただきました。むかしのことを思い出していただいて、農業のこと、観光事業のこと、年中行事のこと、村の祭りのこと、自然を上手に取り入れてのくらしのことなど、日を重ねる程にたくさんの思い出話を語っていただきました。ご協力ありがとうございました。

また、正月は新井地区の大祭りを調査しました。さる一月六日・七日、伊東市新井に鎮座する新井神社の例大祭が執り行われました。この祭りは、平成五年に県の無形民俗文化財に指定されました。御輿の渡御が行われる七日には、寒いなかにもかかわらず、多くの見物人でにぎわいました。私たち市史編集委員は、この祭りの様子と、それを支える新井のみなさんの祭りに対する思いなどを取材すべく、一月六日より七日まで祭りに密着し、さまざまな方にお話をお伺いしました。

新井大祭りに奉納される鹿島踊り

今回の調査でとくに心に残りましたのは、御輿渡御が行われる一月七日、渡御に関わる諸役の方々が朝五時前から西浜でとる水垢離（みずごり）です。ここから、七日の祭りが始まります。私たちもその様子を取材しようと、まだ暗い中、西浜へと足を運びました。真冬の海の中へ入って身を清める姿を見、諸役のみなさんの祭りに対する思いを目の当たりにしました。また、渡御前、御神酒を酌み交わしながらの世代を越えた祭り談義の中に、地域が一つになっていることを実感しました。

今回の調査は「現在の祭り」が中心でしたが、「かつて」の祭りの様子や、新井のみなさんの生活の様子など、まだまだお伺いしたいことは沢山あります。最後になりますが、今回の調査中に、渡御船（お召し船）乗船許可、東西両浜での近影許可など、格別のご高配を賜りました新井のみなさまに、厚く御礼申し上げます。

さて、今後は、新井の民俗総合調査と池地区への補足調査を予定しています。調査員が各家におじゃまさせていただきますのでご協力ください。難しいお話ではなく、皆さまの経験談をお聞かせいただきます。悲しかったこと、楽しかったこと、何でも思い出してお教えください。

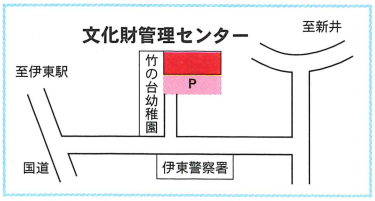
市史編さん室から

市史の編さん事業には多くの専門家が加わっています。この機会にわが家の歴史を訪ねてみましょう！調査活動の他に市史講座や講演会も行います。皆さんの参加をお待ちしています。

市史講座のようす。
みんなで城ヶ崎海岸や伊東の地形の成り立ちを考えました。

歴史情報の問合わせは

文化財管理センター内
市史編さん室へ
〒414-0026　伊東市竹の台3-11
☎ 0557-32-3288
FAX 0557-38-3192



編集発行　伊東市教育委員会生涯学習課
市史編さん係
〒414-8555 伊東市大原二丁目一番一号
☎〇五五七-三六-〇一一一
内線二八四五